

株式会社ミルボン (4919 JP)

中期経営計画の最終年度に当たる FY26 の成長の鍵は、米国および国内事業の収益性の回復にある。

エグゼクティブサマリー

➤ **FY25 決算概要**

ミルボンが発表した FY25 通期決算（12 月期）は、売上高 52,863 百万円（前期比 3.0%増）、売上総利益 33,176 百万円（同 1.8%増）、営業利益 5,652 百万円（同 17.4%減）で着地した。売上高、営業利益ともに 8 月に下方修正した通期予想（売上高 52,300 百万円、営業利益 5,300 百万円）を上回った。

➤ **FY26 通期予想**

同社は FY26 通期予想を、売上高 54,800 百万円（前期比 3.7%増）、営業利益 6,300 百万円（同 11.4%増）としている。同予想は以下の想定に基づいている。

- 1) 国内事業は、売上高 39,880 百万円（同 1.7%増）、営業利益 5,090 百万円（同 7.0%増）、営業利益率は 12.8%（同 0.7pt 増）を予想する。
- 2) 海外事業では、FY25 に予想を上回る売上高を達成した米国・欧州が引き続き堅調となる。しかし米国では FY26 売上高予想 2,850 百万円（同 13.1%増[円建て、以下同]）に対して引き続き FY26 営業損失 168 百万円（FY25 は営業損失 47 百万円）を予想する。韓国では、売上高 5,802 百万円（同 5.4%増）、営業利益 1,271 百万円（同 18.6%増）と安定的な成長を期待する。中国では、売上高 2,623 百万円（同 7.4%増）に対して、営業利益は前期比 54.3%増の 68 百万円と急速に回復すると見ている。

➤ **資本政策と株主還元政策**

同社は中期経営計画の最終年度となる FY26 の資本政策を変更したが、具体的な分配額はまだ開示されていない。ROE 目標は 11.3%から 8.6%（前期比 1.6pt 増）に変更された。ROIC は、6%-8%の資本コストに対して 8.7%（同 0.7%増）と設定されている。同社は配当性向 50%を目安とする累進配当を基本方針としている。FY25 年間配当は一株当たり 88 円とし、前年の配当を下回らない政策を明言している。また成長投資を優先し、余剰の資本は機動的な自社株取得に配分する。

ミルボン (4919 JP): 株価バリュエーション

時価総額 (百万円)	86,800		時価総額 (百万ドル)	560		
22 日平均売買代金 (百万円)	353		22 日平均売買代金 (百万ドル)	2.3		
株価パフォーマンス (%)	4919	TOPIX	業績予想 (百万円, %)	FY24	FY25	FY26CE
株価 (¥, 2026 年 3 月 10 日終値)	2,682	3,664.28	売上高	51,316	52,863	54,800
3mo (2025 年 12 月 10 日終値比)	7.9	8.1	営業利益	6,839	5,652	6,300
6mo (2025 年 9 月 10 日終値比)	8.1	16.7	営業利益率 [OPM] (%)	13.3	10.7	11.5
YTD (年初来)	10.4	5.4	EBITDA	9,128	7,969	8,710
1yr	-11.9	35.7	EPS (¥)	154.12	106.26	135.30
5yrs	-55.7	87.8	財務レバレッジ (X)	1.2	1.1	1.1*
一株当たり指標	4919	TOPIX	ネット D/E レシオ (X)	-0.3	-0.3	-0.3*
EPS (¥, FY26 CE)	135.30	192.91	フリーキャッシュフロー	5,094	2,369	3,916*
DPS (¥, FY26CE)	88.00	0.90	株主還元指標	FY24	FY25	FY26CE
BPS (¥, FY26EST*)	1,590.97	N/A	配当金 (¥)	88.00	88.00	88.00
FCFPS (¥, FY26EST*)	118.25	N/A	配当性向 (%)	57.1	82.3	65.0
予想 PER (x)	19.82	19.27	配当利回り (%)	N/A	N/A	3.3
予想 PBR (x)	1.69	1.74	DOE (%)	6.0	5.8	5.5
予想 PCFR (x)	22.68	N/A	自己株比率 (%)	N/A	1.5	1.5
EV/EBITDA (x)	8.61	N/A	ROE (%)	10.2	7.0	8.7

Source: Nippon-IBR based on data on Bloomberg and Toyo Keizai / *Nippon-IBR Estimates

FY25 決算概要

ミルボンが発表したFY25 通期決算（12月期）は、売上高 52,863 百万円（前期比 3.0%増）、売上総利益 33,176 百万円（同 1.8%増）、営業利益 5,652 百万円（同 17.4%減）で着地した。売上高、営業利益ともに8月に下方修正した通期予想（売上高 52,300 百万円、営業利益 5,300 百万円）を上回った。

対前期で見た場合、営業利益を圧迫した要因は以下の2つである。

- 1) おもに化粧品を中心とした在庫評価損（約 -270 百万円）および為替差損（-250 百万円）による売上総利益率の低下、
- 2) 販管費の増加：販売促進関係費用（万博の スポンサー料金-245 百万円を含む-456 百万円）、人件費（-436 百万円）、物流費（-220 百万円）、研究開発費（-220 百万円）などの増加。

経常利益は貸倒引当金の繰入（223 百万円）を主因に前期比で 21.7%減少し、5455 百万円となった。さらに、投資有価証券評価損（806 百万円）を特別損失に計上した。ポートフォリオの有価証券の一部が買値より 50%以上下落したため、固定資産売却益（292 百万円）により一部相殺されたものの、FY25 純利益は前期比で 31.5%減の 3,437 百万円と大幅に減少した。

FY25 年間配当計画は一株当たり 88 円で変更はなく、配当性向は 82.3%、DOE は 5.8%となった。

ミルボン (4919 JP): 業績推移

(百万円 / 12月決算)	FY23		FY24		FY25				
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	YoY (%)	通期(予)	対通期(予)(%)
売上高	22,703	47,762	24,526	51,316	24,807	52,863	3.0	52,300	1.1
売上原価	7,893	18,237	8,770	18,718	9,305	19,686	5.2	N/A	N/A
売上総利益	14,809	29,525	15,755	32,597	15,502	33,176	1.8	32,926	0.8
GPM (%)	65.2	61.8	64.2	63.5	62.5	62.8	-0.7ppt	63.0	-0.2ppt
販管費	11,719	24,000	12,577	25,758	13,563	27,523	6.9	27,626	-0.4
販管費率(%)	51.6	50.2	51.3	50.2	54.7	52.1	+1.9ppt	52.8	-0.7ppt
営業利益	3,090	5,525	3,178	6,839	1,938	5,652	-17.4	5,300	6.6
OPM (%)	13.6	11.6	13.0	13.3	7.8	10.7	-2.6ppt	10.1	+0.6ppt
経常利益	3,129	5,586	3,324	6,968	1,853	5,455	-21.7	5,180	5.3
RPM (%)	13.8	11.7	13.6	13.6	7.5	10.3	-3.3ppt	9.9	+0.4ppt
当期利益*	2,195	4,001	2,280	5,017	419	3,437	-31.5	3,000	14.6

Source: Nippon-IBR based on Milbon's earnings results materials

* 親会社株主に帰属する当期利益

ミルボン (4919 JP): 部門別売上

(百万円 / 12月決算)	FY23		FY24		FY25				
	上期	通期	上期	通期	上期	通期	YoY (%)	通期(予)	対通期(予)(%)
ヘアケア製品	13,339	28,355	14,682	31,324	15,624	33,466	6.8	33,280	0.6
ヘアカラー製品	8,238	16,953	8,346	17,200	7,982	16,896	-1.8	16,580	1.9
パーマ製品	714	1,463	799	1,547	710	1,435	-7.2	1,400	2.5
化粧品	267	571	566	868	327	664	-23.5	700	-5.1
その他	144	418	131	375	163	401	67	340	17.9
合計	22,703	47,762	24,526	51,316	24,807	52,863	3.0	52,300	1.1

Source: Nippon-IBR based on Milbon's earnings presentation materials

地域別業績

国内

FY25 通期の国内売上高は 39,206 百万円（前期比 1.3%増）、営業利益は 4,757 百万円（同 17.9%減）、営業利益率は 12.1%（同 2.9pt 減）となった。第 4 四半期単独では、売上高 11,386 百万円（同 3.6%増 / 前四半期比 22.0%増）、営業利益 2,111 百万円（前年同期比 13.2%増、前四半期比 110.0%増）まで回復した。第 4 四半期に発売したスタイリング剤の売れ行きが予想以上だったこと、また昨年 5 月に実施した一部ヘアケア用剤の価格改定の影響による販売数量減が、第 4 四半期に入って下げ止まり、価格改定の影響が見えやすくなったことが主因。通年では、売上高、営業利益共に、会社予想（売上高 38,900 百万円、営業利益 4,300 百万円）を上回った。

ヘアケア用剤の FY25 売上高は、10 月発売のスタイリング剤が計画以上の実績となり、前期比 5.6%増の伸びとなり、第 4 四半期単独では同 6.5%増加した。一方、染毛剤の売上については、一部サロンにおける低価格ブランドへの切り替えやコロナ禍でのヘアカラーブームの終焉により前年割れが続く、FY25 は前期比で 3.9%減となった。染毛剤の売上低迷は美容室業界ではもはや一般的なこととなっている。インフレ下で消費者は食費以外の支出を抑えており、美容室は低価格品を導入してコストを下げるか、高付加価値品によりサービス価格を上げるかの選択をして採算維持をする状況となっている。ミルボンの染毛剤製品の中では、オーガニックなどの付加価値を追求した製品（ヴィアロドラ）が堅調である一方、ボリュームゾーンであるオルディーブアディクシーは美容室の低価格製品へのシフトに影響されている。

国内の売上構成比は少ないものの、最も低迷したのは化粧品である。化粧品の売上は、FY24 に好調だった新製品の反動減で、前期比 24.0%減と急落した。これを受けて同社は化粧品の在庫評価損を計上した。

同社の通販（EC）サイト、milbon:iD の登録美容室数は、FY24 末の 6,566 軒から FY25 末の 6,669 軒に増加し、登録者数は 104 万人に達した。FY25 の EC 売上は前期比 14.2%増の約 2,250 百万円となり、ほぼ会社予想の 2,300 百万円通りとなった。季節性要因に加え、6 月に開始した LINE による販促活動が奏功し、下期に売上を伸ばした。

milbon:iD の登録者 104 万人のうち、約 20%がアクティブユーザーである。美容室の顧客は同社のヘアケア製品を美容室の店販か milbon:iD のサイトを通じて購入できる。milbon:iD の EC 売上は増加しているものの、アクティブユーザーの伸びは鈍化している。milbon:iD の客単価は、約 12,000 円 - 13,000 円で安定している。milbon:iD のさらなる成功に向けて、今後は休眠会員の活性化が課題となるであろう。

ヘアケア用剤販促のもう 1 つの施策がスマートサロンである。スマートサロンでは、顧客が同社のヘアケア用剤を試したり、美容師のアドバイスのもとリアルサイズを購入したりすることができる。スマートサロンのサービスを提供する美容室は、FY24 末の 62 軒および FY25 上期末の 73 軒から FY25 末の 83 軒に増加した。

海外

FY25 通期の海外売上高はほぼ会社予想通りの着地となった。一方、営業利益は主に FY24 上期より円高となった為替の影響で予想を下回った。FY25 売上高の 13,657 百万円（前期比 8.1%増[円建て]）に対して、営業利益は前期比 14.2%減（円建て）の 895 百万円と減少した。海外事業のうち特に予想以上の成長を見せたのは米国である。

国別業績

韓国：ミルボン韓国は同社最大の海外事業である。FY25 の売上高 5,503 百万円（前期比 3.0%増[円建て]・同 8.3%増[現地通貨建て]）に対して、営業利益は前期比 13.5%減（円建て）の 1,071 百万円となった。いずれも会社予想の売上高 5,583 百万円、営業利益の 1,305 百万円を下回った。染毛剤の FY25 売上高は前期比 5.7%増（現地通貨建て）となった。第 1 四半期には政治的混乱の影響で消費が低迷したが、第 2 四半期には競合が市場から撤退し、また政情不安の鎮静化を受けて代理店の在庫調整が完了したことにより、業績は回復傾向となった。第 3 四半期には、政府の「民生回復消費クーポン」の支給が追い風となり、売上高 1,549 百万円（同 16.6%増・前四半期比 11.7%増）に対して営業利益は 400 百万円（同 29.9%増・同 19.0%増）と回復した。第 4 四半期には第 3 四半期の景気刺激策による反動と現地の美容師を対象にしたイベントの費用、および為替の影響により、売上高 1,376 百万円（同 1.8%増・同 11.2%減）に対して営業利益は 84 百万円（同 55.1%減・同 79.0%減）に減少した。

こうした逆風にもかかわらず、同社の製品群の売上はそれぞれ前期比で伸長した。ヘアケア用剤の FY25 売上高は前期比で 10.1%（現地通貨建て）の伸びとなった。韓国事業の FY25 売上高の 69.2%は染毛剤が占めており、染毛剤は上述の第 1 四半期の減益の反動で前期比 5.7%増（現地通貨建て）となった。FY25 の営業利益率は、製品ミックスの変更および第 4 四半期のイベント費の増加により、前期比 3.7pt 減の 19.5%となり、FY25 の目標に対して 3.9pt の未達となった。

米国：ミルボン USA の FY25 決算は、会社予想の売上高 2,145 百万円（前期比 8.3%増）、営業損失 275 百万円を上回って着地した。現地代理店との協働体制で新たな美容室を開拓したことにより、売上高は前期比 27.3%増（円建て）の 2,520 百万円と伸長した。ヘアケア用剤は前期比 30.4%増（現地通貨建て）と大幅増収となった。FY25 の営業損失は 47 百万円となり、代理店との協働で現地ニーズに合わせた新製品を発売したことにより、FY24 の営業損失 89 百万円、および FY25 会社予想の営業損失 275 百万円から赤字幅を大幅縮小させた。第 4 四半期単独では、売上高 657 百万円（前期比 19.5%増・前四半期比 7.7%減）、営業利益 9 百万円となった。

中国：市場環境は引き続き厳しいものの、グローバルミルボンの導入美容室数が順調に増加した。その結果中国事業の決算は、売上高 2,441 百万円（前期比 4.9%増[円建て]）、営業利益 44 百万円（同 11.3%減[円建て]）となり、会社予想の売上高 2,333 百万円（同 0.2%増）、営業利益 8 百万円（同 83.7%減）を上回った。ヘアケア用剤の FY25 売上高は前期比で 6.9%増加（現地通貨建て）した。さらに、FY24 まで、マイナスだった染毛剤の売上は前期比 8.2%増（現地通貨建て）とプラスに転換した。

ミルボン (4919 JP): 国別売上・営業利益実績および予想

(百万円 / 12 月決算)		FY24		FY25		FY25		FY26(予)		
		上期	通期	上期	通期	YoY (%) *	通期(予)	対通期(予)(%)	通期(予)	YoY (%) *
日本	売上高	18,367	38,684	18,483	39,206	1.3	38,900	0.8	39,880	1.7
	営業利益	2,534	5,796	1,640	4,757	-17.9	4,300	10.6	5,090	7.0
	OPM (%)	13.8	15.0	8.9	12.1	-2.9ppt	11.1	+1.0ppt	12.8	+0.7ppt
米国	売上高	922	1,981	1,150	2,520	27.3	2,145	17.5	2,850	13.1
	営業利益	-71	-89	-216	-47	N/A	-275	N/A	-168	N/A
	OPM (%)	-7.8	-4.5	-18.8	-1.9	+2.6ppt	-12.8	+10.9ppt	-5.9	-4.0ppt
中国	売上高	1,211	2,328	1,193	2,441	4.9	2,333	4.6	2,623	7.4
	営業利益	77	49	76	44	-11.3	8	450.0	68	54.3
	OPM (%)	6.4	2.1	6.4	1.8	-0.3ppt	0.4	+1.4ppt	2.6	+0.8ppt
韓国	売上高	2,662	5,345	2,577	5,503	3.0	5,583	-1.4	5,802	5.4
	営業利益	743	1,239	587	1,071	-13.5	1,305	-17.9	1,271	18.6
	OPM (%)	27.9	23.2	22.8	19.5	-3.7ppt	23.4	-3.9ppt	21.9	+2.4ppt
その他	売上高	1,362	2,976	1,402	3,191	7.2	3,339	-4.4	3,645	14.2
	営業利益	-105	-157	-148	-172	N/A	-38	N/A	39	N/A
	OPM (%)	-7.7	-5.3	-10.6	-5.4	-0.1ppt	-1.1	-4.3ppt	1.1	+6.5ppt
海外合計	売上高	6,159	12,631	6,323	13,657	8.1	13,400	1.9	14,920	9.2
	営業利益	643	1,043	297	895	-14.2	1,000	-10.5	1,210	35.1
	OPM (%)	10.5	8.3	4.7	6.6	-1.7ppt	7.5	-0.9ppt	8.1	+1.5ppt

Source: Nippon-IBR based on Milbon's earnings results materials

* YoY figures are based on Japanese yen denominated sales and OP numbers

FY26 業績予想

同社は FY26 通期予想を、売上高 54,800 百万円（前期比 3.7%増）、営業利益 6,300 百万円（同 11.4%増）としている。予想は以下の想定に基づいている。

- 国内の美容室市場では、消費者ニーズ多様化への対応が求められる。同社は業務メニュー・店販用品それぞれの切り口で、美容室の生産性向上の支援を行う。例えば、同社および美容室にとって利益率の高い染毛剤製品は、近年国内市場でマイナス成長となっている。同社は従来品では叶えられなかったヘアカラーの悩みからの解放を実現する新ブランド、PRETOWA を投入することで巻き返しを図る。また、消費の二極化に合わせたサロンカラーメニューづくりの支援を行う。FY26 の国内売上高は 39,880 百万円（前期比 1.7%増）、営業利益は 5,090 百万円（同 7.0%増）、営業利益率は 12.8%（同 0.7pt 増）を予想する。
- 海外事業では、FY25 に予想を上回る売上高を達成した米国・欧州が引き続き堅調となると見ている。アジア市場では安定的な成長を目指す。米国・欧州での予想を上回る成長を受け、FY26 売上高予想を 14,300 百万円（2025 年 2 月予想）から 14,920 百万円（2026 年 2 月予想）に上方修正した。しかし米国では FY26 売上高予想 2,850 百万円（前期比 13.1%増[円建て]）に対して引き続き FY26 営業損失 168 百万円（FY25 は営業損失 47 百万円）を予想する。韓国では、売上高 5,802 百万円（同 5.4%増[円建て]）、営業利益 1,271 百

万円 (同 18.6%増[円建て]) と安定的な成長を期待する。中国では、売上高 2,623 百万円 (同 7.4%増[円建て]) に対して、営業利益は前期比 54.3%増 (円建て) の 68 百万円と急速に回復すると見ている。

- FY26 の全社営業利益予想の増益 647 百万円 (前期比 11.4%増) は以下の要因に基づいている。
 - 1) 増収 (同 3.7%増) による売上総利益の増加 (+1,215 百万円)
 - 2) 以下の要因に起因する売上総利益率の上昇による増益 (+328 百万円)
 - a) 在庫評価減 (+175 百万円)
 - b) 価格改定 (2025 年 5 月実施) (+100 百万円)
 - c) コストダウン (+53 百万円)
 - 3) 減益要因
 - a) 人件費の増加 (-527 百万円)
 - b) 物流費の増加 (-233 百万円)
 - c) 研究開発費の増加 (-211 百万円)

ミルボン (4919 JP): 業績及び会社予想

(百万円 / 12 月決算)	FY24		FY25			FY26 (予)	
	上期	通期	上期	通期	YoY (%)	通期(予)	YoY (%)
売上高	24,526	51,316	24,807	52,863	3.0	54,800	3.7
国内	18,367	38,684	18,483	39,206	1.3	39,880	1.7
海外	6,159	12,631	6,323	13,657	8.1	14,920	9.2
売上総利益	15,755	32,597	15,502	33,176	1.8	34,720	4.7
GPM (%)	64.2	63.5	62.5	62.8	-0.7ppt	63.4	+0.6ppt
販管費	12,577	25,758	13,563	27,523	6.9	28,420	3.3
販管費率(%)	51.3	50.2	54.7	52.1	+1.9ppt	51.9	-0.2ppt
営業利益	3,178	6,839	1,938	5,652	-17.4	6,300	11.4
OPM (%)	13.0	13.3	7.8	10.7	-2.6ppt	11.5	+0.8ppt
経常利益	3,324	6,968	1,853	5,455	-21.7	6,180	13.3
RPM (%)	13.6	13.6	7.5	10.3	-3.3ppt	11.3	+1.0ppt
当期利益*	2,280	5,017	419	3,437	-31.5	4,300	25.1

Source: Nippon-IBR based on Milbon's earnings results materials

* 親会社株主に帰属する当期利益

資本政策

同社は中期経営計画の最終年度となる FY26 の資本政策を変更したが、具体的な分配額はまだ開示されていない。ROE 目標は 11.3%から 8.6% (前期比 1.6pt 増) に変更された。ROIC は、8.7% (同 0.7%増) と設定されている。同社の資本政策の枠組みは以下の通りである。

- 市場の期待値を反映させた資本コストを追加で反映させる CAPM (資本資産評価モデル) を採用する。同社は資本コストを 6%-8%と想定しており、指標として約 8%を引用している。
- 同社は現在有利子負債を有していないが、資本コスト削減の見地から、今後大規模設備投資の一部に有利子負債を活用することを検討する。今後国内生産能力が不十分となった場合、生産能力増強のための大型投資が必要となる。しかし当面の間、同社の生産能力は、国内、中国およびタイ工場の中期経営計画目標達成には十分である。国内消費者の消費行動の変化を踏まえ、同社は国内生産能力の増強を図る前に成長戦略の見直しが必要と考え、ゆめが丘工場の増強を一時停止している。現中期経営計画以降の長期的視点では、海外事業の成長を加速させ、製造設備への投資を最適化させる計画である。
- 同社は配当性向 50%を目安とする累進配当を基本方針としている。FY25 年間配当は一株当たり 88 円とし、前年の配当を下回らない政策を明言している。また同社は FY27 以降に計画していた機動的な自社株買いを FY25 に前倒しで開始した。8 月 8 日付けで、870,000 株 (発行済み株式数の 2.7%) ・上限 2,000 百万円の自己株式取を発表し、10 月 27 日までに完了した。今回買い戻した全株 (発行済み株式数の 2.45%) を 12 月 26 日に償却している。今後も成長投資を優先し、余剰の資本は機動的な自社株取得に配分する。

GENERAL DISCLAIMER AND COPYRIGHT

This report has been commissioned by Milbon Co., Ltd (the Sponsor) and prepared and issued by Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd (Nippon-IBR), in consideration of a fee payable by Milbon Co., Ltd. Fees are paid on delivery of the report in cash without recourse. Nippon-IBR may seek additional fees for the provision of follow-up research reports and associated IR services for the client but does not get remunerated for any investment banking services. We never take payment in stock, options, or warrants for any of our services.

Accuracy of content: *All information used in the publication of this report has been compiled from publicly available sources that are believed to be reliable, however Nippon-IBR does not guarantee the accuracy or completeness of this report and has not sought for this information to be independently verified. Opinions contained in this report represent those of the Nippon-IBR analyst at the time of publication. Forward-looking information or statements in this report contain information that is based on assumptions, forecasts of future results, estimates of amounts not yet determinable, and therefore involve known and unknown risks, uncertainties and other factors which may cause the actual results, performance, or achievements of their subject matter to be materially different from current expectations.*

Exclusion of Liability: *To the fullest extent allowed by law, Nippon-IBR shall not be liable for any direct, indirect, or consequential losses, loss of profits, damages, costs, or expenses incurred or suffered by you arising out or in connection with the access to, use of or reliance on any information contained on this note.*

No personalised advice: *The information that we provide should not be construed in any manner whatsoever as, personalised advice. Also, the information provided by us should not be construed by any subscriber or prospective subscriber as Nippon-IBR's solicitation to effect, or attempt to effect, any transaction in a security. The securities described in the report may not be eligible for sale in all jurisdictions or to certain categories of investors.*

Investment in securities mentioned: *Nippon-IBR has a restrictive policy relating to personal dealing and conflicts of interest. It does not conduct any investment business and, accordingly, does not itself hold any positions in the securities mentioned in this report. However, the respective directors, officers, employees, and contractors of Nippon-IBR may have a position in any or related securities mentioned in this report, subject to its policies on personal dealing and conflicts of interest.*

Copyright: *Copyright 2026 Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd.*

For further enquiry, please contact:

Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd
118 Pall Mall
London SW1Y 5EA
TEL: +44 (0)20 7993 2583
Email: enquiries@nippon-ibr.com



Research Beyond Horizons
Japanese Equity Specialist

Nippon Investment Bespoke Research UK Ltd (formerly known as NIB Research UK Ltd.) is registered in England and Wales (9100028) and is authorised and regulated by the Financial Conduct Authority (FRN: 928332).